



題字は、校歌（玄関掲額）より

令和5年 9月12日(火)

学力調査の結果（続報）

「全国学力・学習状況調査」（三年生/国・数・英、生徒・学校質問紙）及び「みえスタディ・チェック」（一・二年生/国・数・理・生徒意識調査）の結果（概要）をお知らせします。生徒の皆さんは個人の結果を家庭学習などに活かしてください。学校としては、全体の正答率や回答状況を分析し、学校としての「強み」「弱み」の把握に努め、全教員の共通理解のもと授業改善等を通じて学習や生活の指導に活かしていきます。

（強み）◎、弱み△、取組◆

【国語】【全国学調】正答率は全国平均より高い。

- ◎ インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、条件に従って自分の考えを書く。
- ◎ 事象や行為、心情を表す語句（落胆する）について理解し、適切なものを選択する。
- △ 文脈に即して漢字を正しく書く。
- （問い）お（推）し量って「誤答例」押進 推
- △ 古典の語句（いと）と同義語を現代文中から選ぶ。

【みえスタ】

- ◎ 文の中で述語に照応する主語を正しく選ぶ。
- （問い）生徒による：**新入生**の歓迎会は**来週**の**木曜日**だ。
- ◎ 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫して、考えを書く。
- △ 文脈に即して漢字を正しく書く。（一年）
- （問い）（暮）らす 「誤答例」多くは無回答
- △ 文中の主語と述語の関係に注意して文を書く。（二年）
- （問い）主語と述語がつながっていない文（反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。）を選び、文意を変えずに傍線部分を正しく書き直す。

【数学】【全国学調】正答率は全国平均より高い。

- ◎ 自然数の意味を理解し、正しく選ぶ。
- ◎ 二直線が平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことから証明する。

△ 整数 n にかける数が 2、たす数が 6 ならば、計算結果は 3 の倍数になることの説明を完成する。

【みえスタ】

- ◎ 円柱の体積の求め方を正しく選ぶ。（二年）
- ◎ 一元一次方程式の解法を正しく選ぶ。（二年）
- △ 除数が 1 より小さいとき、商が被除数より大きな数となることを問う問題。（二年）

△ 直線が平面に垂直であるかどうかを調べる方法を理解しているかを問う問題。（二年）

【英語】【全国学調】正答率は全国平均とほぼ同じ。

- ◎ 図書館について書かれた英文を正確に読み取り、文中の空所に入る適切な語句を選択する。
- ◎ ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。
- △ 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる。

（問い）上の見取図から、辺 AE が面 EFGH に垂直であるかどうかを調べます。このことはどのように調べればよいですか。下のア～エの中から、正しいものを 1 つ選びなさい。

ア 辺 AE が辺 EF に垂直か調べればよい。
 イ 辺 AE が辺 EF、辺 EH にそれぞれ垂直か調べればよい。
 ウ 辺 AE が辺 EF、辺 AB にそれぞれ垂直か調べればよい。
 エ 辺 AE が辺 EF に、辺 EH が辺 EF に垂直か調べればよい。

※正答イが選択できたのは約 3 割。見取図から直線と平面の位置関係を判断する空間認識への課題が考えられる。

【正答例①】 $<n \times 2 + (n+6)>$ を $3(n+2)$ と計算している場合>

(a) $n+2$ は整数だから、(b) $3(n+2)$ は 3 の倍数である。
 正答の条件：下線部 (a), (b) を記述すること

【正答例②】 $<n \times 2 + (n+6)>$ を $3n+6$ と計算している場合>

(c) $3n$ 、6 が 3 の倍数で、3 の倍数の和は 3 の倍数だから、
 (d) $3n+6$ は 3 の倍数である。
 正答の条件：下線部 (c), (d) について記述すること

※目的に応じて式を変形し、意味を読み取って、事柄が成り立つ理由を説明する力に課題が見られる（正答約 5 割）。問題をパターン化して解くだけでなく、理論的に考え、説明する課程を大切にしたい。

△ 話すことにおいて、何を問われているのかを理解すること。即興でやり取りする問題。一問一答形式のやり取りを基本に、自分の考えに理由や具体例を付けたしながら話す練習が求められる。

◎ 実験結果をもとに、氷砂糖が水に溶けても質量が変化しないという選択肢を判断する。（一年）
 ◎ アブラナの花のつくりを正しく表している模式図を正しく選ぶ。（二年）

△ 氷砂糖の溶けている状態を表す模式図を正しく選べるが、選んだ根拠を自分の言葉で説明する。（二年）
 △ 100g の水に物質を 50g 加えた水溶液の濃度を少数第一位を四捨五入して正しく求める。（二年）

【生徒・学校質問紙による学習・生活・意識の状況】
 ◎ 全学年、教科を越え無回答率が低く、質問紙調査においても、粘り強く考えようとする姿勢が見られる。

◎ 「先生や学校にいる大人に相談できる」生徒の割合が高く、よい関係性が垣間見られる。
 △ 「自分にはいいところがある」の肯定的回答は少ないが、「そう思う」と答えた割合は減っている。

△ 資料や文章・話の組立てなどを工夫して発言や発表を行う取組について生徒・教師間での意識の乖離（生徒の捉えが教師より低い）がある。
 【結果を踏まえての指導の工夫・改善】

◆ 誤答傾向から躓きの原因を探り、語句の記憶支援や間違いの防止につながる指導法の研鑽とともに小テストや繰り返し書く練習等を粘り強く進める。

◆ ICT の効果的な活用をさらに進め、図表・グラフ等と語句・文章を関連付けて思考することを大切に、考えを適切に表現し説明する機会を増やす。

◆ 生徒自らが「なぜか」「本当か」といった問いを持ち、自らが納得できる答えを追究する過程を大切にしたい授業づくりを引き続き取り組む。
 ◆ 調査問題の共有を進め、教師それぞれが学力観を明確に持ち、教科を越えての取組となるよう、一層研修に励む。

